

愛知県感染症情報

平成 11 年第 51 週 (12 月第 4 週)

(コメント)

インフルエンザは、349 人から 556 人と約 1.6 倍に急増しています。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎も依然として流行しています。

この愛知県感染症情報は、愛知県衛生研究所のホームページ

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken>) からも見ることができます。

(先生方からのコメント)

- ・ 今週は、嘔吐、下痢を伴うものが多かった。熱を伴うものは、幼児に目立った。
(田原町 かわせ小児科)
- ・ 嘔吐症、あるいは嘔吐下痢症は今週も流行しています。
(西尾市 やすい小児科)
- ・ 成人の感染性胃腸炎が目立ちました。
(西尾市 山岸クリニック)
- ・ A 型インフルエンザ 10 人 (男 4 人、女 6 人) 全て Fl uA 陽性
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ インフルエンザは Fl uA test 陽性者とその家族です。
(岡崎市 医療法人深田小児科)
- ・ 百日咳 1 才男 (ワクチン未接種)
(岡崎市 川島小児科水野医院)
- ・ 異型肺炎 11 才女
(幸田町 とみた小児科)
- ・ 感染性胃腸炎中 { 病原性大腸菌 0-1 7 才男、病原性大腸菌 0-18 10 ~ 14 才男、Fl uA (+) 4 人 (5 才男、6 才男、7 才女、9 才女) }
(知立市 近藤こどもクリニック)
- ・ A 型インフルエンザ出始めました。
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ マイコプラズマ肺炎 2 才女
(三好町 三好町立三好病院)
- ・ 病原性大腸菌 0-1 1 才男、病原性大腸菌 0-6 2 才女
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)

- ・ 病原性大腸菌0-1 7才女（VT1、2いずれも陰性）
（豊田市 田中小児医院）
- ・ インフルエンザA型 18人（ディレクティジェンFluA陽性）
（豊田市 やふそ小児科）
- ・ 突発疹、水痘流行中。
嘔吐症状急増（家族発症多くみられます。子供 大人）1～2日で改善。
溶連菌家族内感染あり（3才男 母親）。
二峰性発熱パターンの感冒が多くみられます。
（尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院）
- ・ インフルエンザはみられますが（殆どA型インフルエンザ）増加の傾向はありません。乳幼児で嘔吐下痢症増えましたが、ロタウイルス陽性は多くありません。
（瀬戸市 津田こどもクリニック）
- ・ 水痘、感染性胃腸炎、A群溶血性連鎖球菌感染症が多いです。
（小牧市 鈴木小児科）
- ・ インフルエンザ、感染性胃腸炎ともに多くなりました。
（春日井市 かちがわ北病院）
- ・ 急性腸炎（1才3ヶ月男カンピロバクター、病原性大腸菌0-1 VT1、VT2(-)の混合感染）
帯状疱疹 2才4ヶ月
（東海市 小児科ハヤカワ医院）
- ・ 感染性胃腸炎は経過が長く、家族内感染で、成人や老人にも感染する傾向があります。
（蒲郡市 医療法人鈴木小児科医院）
- ・ 感染性胃腸炎が相変わらず多い。
インフルエンザが増えてきたようです。
4才女、7才女はディレクティジェンFluAで確認。他は先週兄弟が発症し抗体確認したものと、4才児例の家族。
先週12月17日に抗体検査した3人でA型HI(H3N2)の上昇あり。発熱は6～7週間で二峰性。
（一宮市 あさのこどもクリニック）
- ・ 嘔吐、下痢、腹痛を伴う感冒性疾患が目立ちます。
（一宮市 田中内科小児科医院）
- ・ インフルエンザA 8才女
（一宮市 平谷小児科）

- ・ 感染性胃腸炎はロタウィルス腸炎 2 名（1 才、3 才）、病原性大腸菌 ETEC：0-25 2 才女、ETEC：0-1 3 才女
マイコプラズマ肺炎8名（成人2名、小児6名）
インフルエンザ22名（成人男1名及び女6名、小児男10名及び女5名）
（尾西市 城後小児科）
- ・ 感染性胃腸炎、咳嗽の強い気管支炎（発熱期間は短い）が流行しています。
（江南市 みやぐちこどもクリニック）
- ・ インフルエンザ多くなりました。FluA(+)、アマンタジン著効
（岩倉市 なかよしこどもクリニック）

（1～3類感染症の発生状況）

腸管出血性大腸菌感染症病原体保有者3名。

西尾保健所から報告の38才男、36才女、8才男いずれも12/16初診、12/20診定、菌型は、0-157 VT2(+)

（全数把握の4類感染症の発生状況）

梅毒患者1名。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者1名。

アメーバ赤痢患者1名。

AIDS患者1名。

第49週（12月6日～12月12日）の4類感染症の全国状況

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘など、冬期に流行のみられる疾患の報告数が急増している。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、先週に引き続き鳥取県で定点当たり報告数7.21と多い。感染性胃腸炎はほぼ全国的に流行がみられており、関東、東海、九州地方などで特に報告が多くなっている。水痘は石川県で定点当たり4.69、宮崎県で4.65、新潟県で4.05の報告がある。インフルエンザは、宮城県で定点当たり報告数5.56と多く、A/ソ連型が主に分離されているが、A/香港型の分離報告もある。その他大阪府で定点当たり2.09、奈良県で2.05報告がある。

（Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）

学生達が冬休みに入って大学構内は静かになっていますが、医局や研究室では遅くまで電灯がついています。仕事に追われているうちに今年も暮れようとしています。いつも貴重な情報を有難うございます。12 月前半のまとめをお送りします。

1. インフルエンザ情報:まだそれほどの大流行は起こっていませんが名古屋市内や県下各地区で集団カゼの発生が報告されています。前回報告いたしました県下津島市の A ソ連型(H1N1)が分離された 11 月下旬の発生以降、全国的には A 香港(H3N2)が分離されている地区もありますが 12 月上旬の名古屋市内や安城市の発生では分離ウイルスは A ソ連(H1N1)でした。特に大きな抗原変異はないようです。前回同様をお願いします。本年度の先生方の地区のインフルエンザ、特に臨床症状や経過についてぜひ情報をお知らせくださいますようお願いいたします:最高体温と発熱期間、二峰性発熱、脳炎肺炎や筋炎の合併とワクチンの有効性など、第一線の日常診療で参考になる(感染症サーベイランスの数字には出てこないような)情報をお寄せ下さい。

2. 名古屋市内:カゼ様の上気道疾患・咽頭炎が増加していますが集団カゼはあまり目立ちません。分離ウイルスは上記のように A ソ連(H1N1)です。乳児から学童まで(地区により年齢に多少差があるようです)の感冒性胃腸炎や嘔吐下痢症(嘔吐腹痛で始まり下痢、時に脱水による入院例もあるが軽症例も多い。ロタウイルス陽性例と陰性例あり)が各地区で多発中です(城北病院渡辺先生、第二日赤岩佐先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生)。気道感染症では気管支炎、RS ウイルス感染症、細気管支炎、仮性クループ、マイコプラズマ感染症を含む肺炎が各地区で目立ち、要入院例の報告を沢山いただいています。(城北・渡辺先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生、中京病院柴田先生)。

その他溶連菌感染症(城北・渡辺先生、千種区今枝先生、三菱・岩間先生)、川崎病(城北・渡辺先生)、感染誘発の喘息(三菱・岩間先生)などのお手紙をいただきました。

3. 尾張地区:犬山市武内先生から流行性嘔吐下痢症とロタウイルス感染症が多発中で、扁桃炎も多い、津島市民病院長田先生からはインフルエンザ A 抗原陽性例がみられるようになった、江南市昭和病院丸地先生からは溶連菌感染症と EB ウイルス感染症(幼児から小学低学年、要入院例目立つ)が多くロタウイルス感染症と RS ウイルス感染症が出現、岩倉市永吉先生からは流行性角結膜炎が保育園で流行し両親も罹患、急性胃腸炎が波状的に流行、水痘とムンプス、手足口病は相変わらず多く、嘔吐を伴う 5~6 日の発熱あり、常滑市民病院肥田先生からは感冒性胃腸炎が流行、溶連菌感染症少々、市立半田病院中島先生からは水痘が流行していてマイコプラズマ肺炎がやや多いとのお手紙でした。

4. 三河地区:豊田地区では嘔吐下痢の感染性胃腸炎急増(ロタウイルス陽性例出現)、3~4 日発熱の続く上気道炎、新生児から 3 ヶ月までの呼吸困難つよい RS ウイルス感染症の入院例目立つ(加茂病院大須賀先生、竹内病院梶田先生)、岡崎市民病院系洲先生からは SRSV と思われる胃腸カゼが流行中で川崎病が依然多く、乳児 RSV 感染症(呼吸管理を要する例あり)目立った、安城更生病院小川先生からは家族の全員が嘔吐下痢症という例(2~3 日で回復)が目立ち、細気管支炎や喘息性気管支炎がやや増加、知立市近藤先生からはロタウイルス感染症を含む感冒性下痢症(乳幼児)と、感冒性嘔吐症(年長児)、溶連菌感染症が多発中でサルモネラ・病原性大腸菌合併例あり、ワクチン接種歴がある児のムンプスと水痘あり、刈谷市田和先生からは乳児の嘔吐下痢症がかなり多いが軽症、クループ症候群がやや目立つ、豊橋市宮澤先生からは溶連菌感染症、感冒性胃腸炎、水痘、細気管支炎が目立つとのお手紙でした。有難うございました。

(文責 磯村)